

第3章 将来都市像と都市づくりの目標

- 3-1 将来都市像
- 3-2 都市づくりの基本目標
- 3-3 将来都市構造



3-1 将来都市像



本市の最上位計画である「第7次総合計画」では、以下の5つの基本理念に基づき、目指す都市将来像を「幸せが未来へつづくまち えべつ」としています。

第7次総合計画

<基本理念>

- ① いつまでも元気なまち
- ② みんなで支え合う安心なまち
- ③ 子どもの笑顔があふれるまち
- ④ 自然とともに生きるまち
- ⑤ 新しい時代に挑戦するまち

<将来都市像>

幸せが未来へつづくまち えべつ

本計画においても、目指す将来都市像を「幸せが未来へつづくまち えべつ」とし、将来都市像の実現に向けた都市づくりの目標や方向性を定めます。

<将来都市像>

幸せが未来へつづくまち えべつ



3-2 都市づくりの基本目標

本計画では、第2章の求められる都市づくりや将来都市像を踏まえ、長期的な視点から都市づくりの方向性を定めるため、目標年次以降の都市の姿を見据えながら、今後10年間で目指す都市づくりの基本目標を5つ設定しました。

また、持続可能な都市づくりを進めるために必要な視点として、SDGsとの関連を整理し、目標設定を行いました。

1. 駅周辺を拠点とする集約型都市づくり ～えべつ版コンパクトなまちづくり～



- 様々な都市機能が集積する駅周辺などを拠点とし、拠点と他の地域が機能的に連携することで、効率的で持続可能な都市づくりを目指します。
- 地域の特性などを踏まえた都市機能を誘導し、多様なニーズに対応した拠点の形成を図るとともに、拠点間の連携を深めることで賑わいの向上や循環を図ります。
- 拠点と拠点、居住地と拠点の往来など、交通環境の充実等を図ることにより、歩いて暮らしやすい都市づくりの実現を目指します。



図 3-1 コンパクトなまちづくりのイメージ

2. 江別の優位性を生かした経済の発展



- 本市は北海道経済の中心である道央圏に位置し、道央自動車道や広域にわたる道路網により、物流拠点や道内各地へのアクセスに優れていることや大学・研究機関等が集積していることなど、交通の優位性や本市の特色を生かした産業振興を図ります。



- 産業地の活性化に資する基盤整備を推進するとともに、インターチェンジ周辺や幹線道路沿線などにおいては、周辺環境に配慮し、地域の特性を踏まえた土地利用の検討を図ります。

3. 災害に屈しない強靱な都市づくり



- 平成30年9月に本市で過去最大震度を観測した北海道胆振東部地震や近年多発する集中的な豪雨などを踏まえ、災害時にも一定の都市機能を維持できるよう災害対策による都市の強靱化を図ります。
- 河川や公共施設をはじめとする既存ストック(※1)の機能強化や老朽化対策を推進するとともに、公園などを活用した指定緊急避難場所の確保など、都市施設における災害対策の強化を図ります。
- 災害時における関係機関との連携の強化や避難に関する周知や啓発を行うことで、防災体制の充実と強化を図ります。



4. 江別らしさを生かした住みよい都市づくり



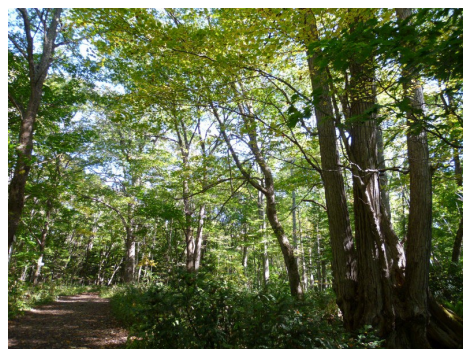
- れんがなどの特産品や恵まれた教育環境、都市近郊型農業、アクセスのしやすさなど、本市の特性を生かしつつ、豊かな自然や未利用地をはじめとした地域が有する資源を有効に活用することで、魅力ある都市づくりを進めます。
- 利便性が高く良好な住環境を保全または創出することで、“誰もが住みやすいまち”として選ばれるような住みよい都市環境の形成を図るとともに、社会や経済などの変化にも柔軟に対応できる持続性のある都市を目指します。



5. 自然豊かで環境にやさしい都市づくり



- 野幌森林公園や石狩川などをはじめとする良好な自然環境を市民等と適正に保全するとともに、水辺などを活用した取組を進め、自然環境との共生を図ります。
- コンパクトなまちづくりなどによる環境負荷の低減や再生可能エネルギー(※2)に関する取組など、環境にやさしい都市づくりを目指します。



(※1) まちづくりにおいては、今まで整備されてきた道路や公園、下水道、公共施設、建築物等のインフラ設備のこと。
 (※2) 太陽光や風力、火力、地熱、バイオマスなど、一度利用しても再生可能なエネルギー資源のこと。



3-3 将来都市構造

(1) 将来都市構造の考え方

将来都市構造は、将来都市像の実現を目指し、これまでの都市の成り立ちや都市づくりの基本目標を踏まえ、将来の都市の骨格を示すものです。

野幌駅周辺と一体的に都市機能が連担する国道12号沿道を本市の中心市街地、江別駅と大麻駅周辺を主要な拠点である地区核、その他の駅周辺や元江別中央地区を地域拠点と位置づけ、えべつ版の集約型都市構造の形成を目指します。

これからは、持続可能な都市運営と誰もが便利で快適に暮らせる都市を実現するために、それぞれの特性に応じた多様な都市機能の集積を一層図るとともに、拠点間や居住地との移動を道路・公共交通などで連携することで、コンパクト・プラス・ネットワークによる都市構造を構築することを基本とします。

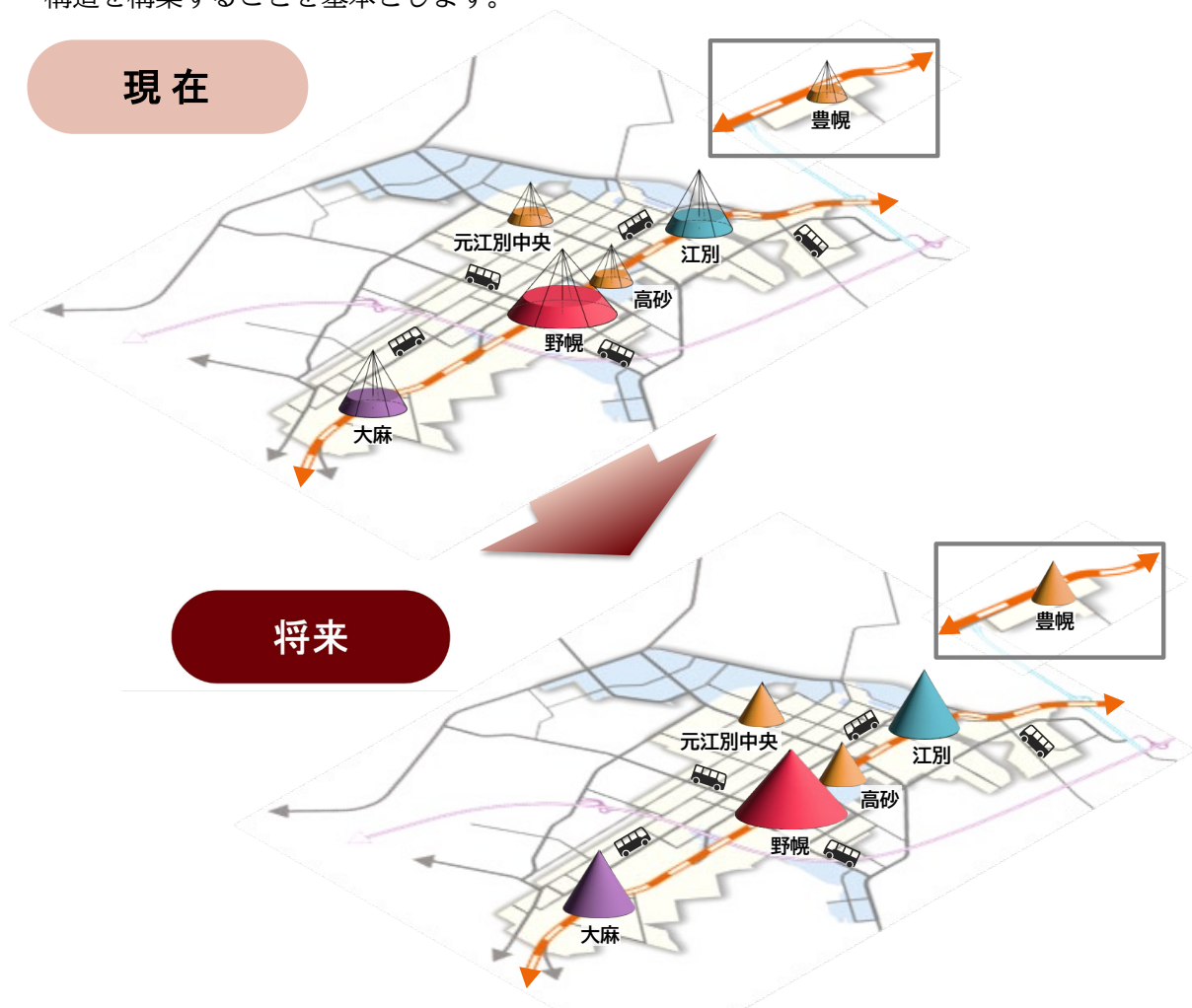


図 3-2 集約型都市構造のイメージ

また、主に農業地である市街化調整区域においては、健全な農業の発展と自然環境の保全のため、市街化を抑制することを基本としつつ、都市部と農村部の近接や交通利便性などの特性を生かします。

このような考え方に基づき、将来に向けた都市構造を次のとおり設定します。



(2) 将来都市構造

1) 拠点

拠点は、商業業務機能、文化交流機能などが集積する都市や地域活動の中心的地区であり、今後の人口減少・少子高齢化などにより、拠点への生活利便施設等の都市機能の集約化や地域間におけるコミュニティの連携がさらに求められています。このため、都市機能が集積する江別駅、野幌駅、大麻駅の各周辺地区を主要な拠点、高砂駅、豊幌駅の各周辺地区及び元江別中央地区を地域住民の日常を支える拠点と位置づけ、都市活動を支える中心市街地を中心に、地区核、地域拠点を特性に応じて合理的に配置し、各拠点の効率的な育成や相互連携を図ります。

項目		説明
拠点	中心市街地	本市全体に必要な機能が集積した拠点
	地区核	中心市街地との連携を担う拠点
	地域拠点	地域住民の日常生活を支える拠点

2) 中心軸

駅周辺を中心とする拠点を東西に貫くJR函館本線及び国道12号は、拠点間の連携や交通ネットワークの要となることから、都市の中心軸と位置づけ、沿線においては、都市の骨格にふさわしい土地利用などを目指します。

3) 交通軸

広域交通、地域間交通のネットワークを担う、主要な路線は、交通軸として位置づけます。

項目		定義
交通軸	主要幹線軸	「高速自動車道」や「広域高規格道路」をはじめとした広域及び地域間連携の役割を担う軸。
	幹線軸	主要幹線軸を補完し、各市街地間を連絡する役割を担う軸。
	市街地内南北交通軸	主に中心軸（国道12号）を基点とし、市街地の南北アクセスを担う軸。
	都市内環状道路	都市内のネットワーク化を図り、市街地や地域間の交通アクセス性を高める路線。
	都心環状道路	都心部のネットワーク化を図り、周辺市街地から都心地区への交通アクセス性を高める路線。
	幹線歩行経路	歩行等により拠点内や拠点周辺の主要な連携を担う経路。



4) 河川軸

本市を代表する石狩川、千歳川、夕張川の主要3河川を、河川軸として位置づけ、防災機能のほか、うるおいや豊かな緑の環境の提供など良好な自然環境を生かした利活用を図ります。

5) 住宅地

拠点周辺に広がる住宅を中心とした市街地を住宅地と位置づけ、駅を中心とする歴史的成り立ちや地理的条件、コミュニティ形成などから、誰もが安心して生活できる住環境の形成を図ります。

6) 工業地

第1、第2工業団地（工栄町、角山）、RTNパーク（西野幌）などを、交通環境や操業環境が整った工業地として位置づけます。また、インターチェンジ周辺は、交通便利などの優位性を生かし、産業振興や地域の魅力向上などにつながる土地利用を検討します。

7) 農業地

市街地外縁に広がる優良な農地及び農村集落地を農業地として位置づけます。優良農地と良好な農村環境の保全、食料生産基地としての土地利用を基本としつつ、市街地と近接する特性を生かし、産業振興につながる土地利用などについて、周辺環境との調和などを考慮して検討します。

8) 野幌森林公園

野幌森林公園は、周辺の住宅地や工業地などの魅力づくりと環境負荷の低減などを担う本市の緑の要として位置づけます。

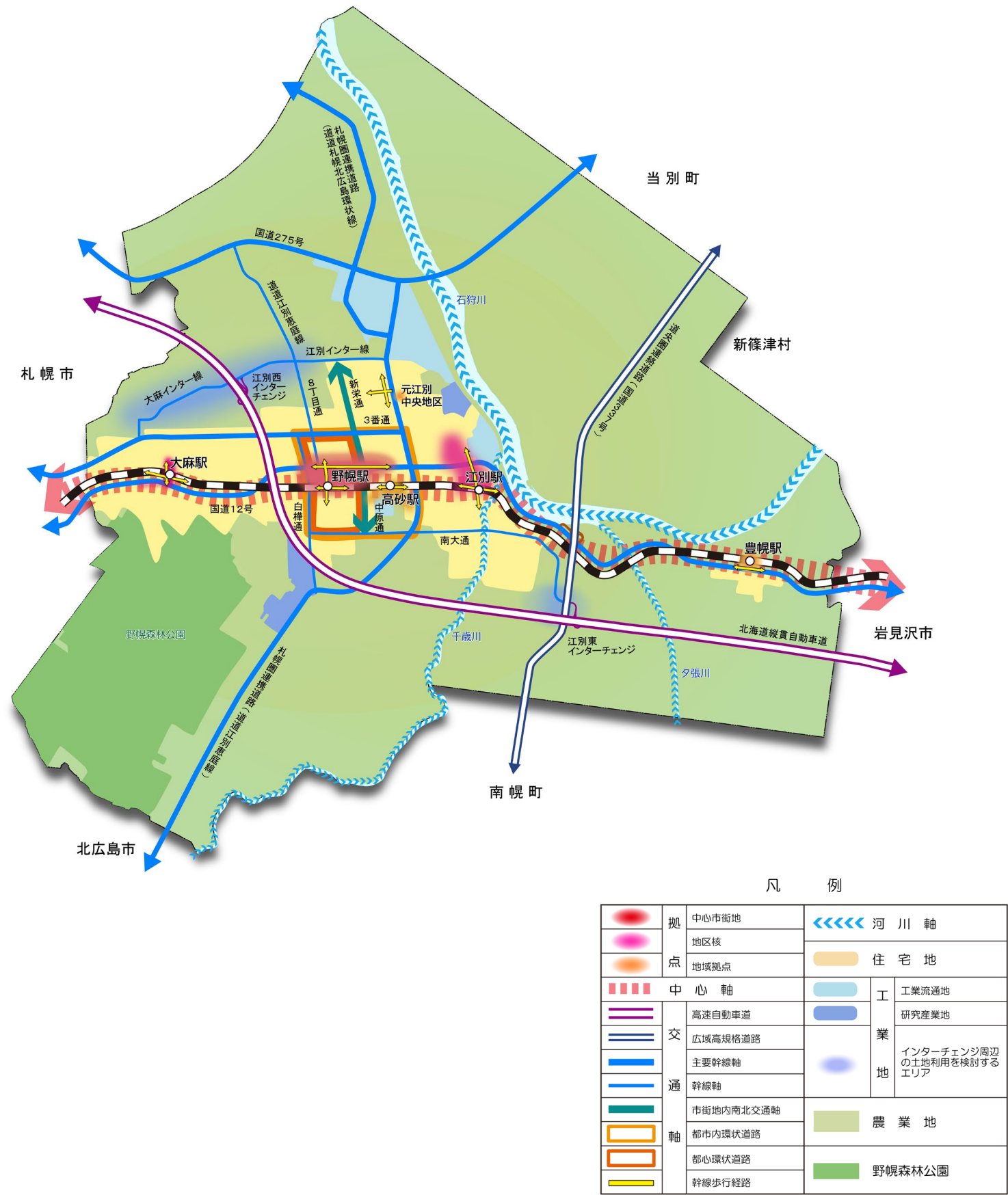


図 3-3 将来都市構造図

